

講義名	健康情報論			授業形態	
担当教員	北村 裕美	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

日本人のヘルスリテラシーは欧米に比べて低いと言われている。健康で豊かな社会の実現に貢献するためには、まず自らのヘルスリテラシーを高めることが肝要である。そこで本講義では、国内外の健康に関する情報を適切に得て、活用できるための基礎的な知識と情報収集法を紹介する。また、人口統計や疾病情報など、ヒトにおける健康問題を考える際に必要な健康情報と根拠に基づく医療の基礎の一つである疫学について概説する。

到達目標

マスメディア、インターネット、文献データベースなどを利用して、エビデンスのある健康情報を収集できるようになる。
健康に関する公的統計指標の基礎知識を学び、その動向を説明できるようになる。
調べた内容を分かりやすく示し、伝えることができるようになる。
タイピングスキルが準2級レベル以上になる。

提出課題

発表データ

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

必要に応じて、個別に講評する。

評価の基準

確認テスト・・・75% 10回程度を行います
発表・・・25%
*授業実施時間数の3分の1以上（5回以上）欠席した者は単位を認定しない。
*就職活動、部活動などによる欠席は考慮しない。

履修にあたっての注意・助言他

基本的なパソコンスキル（Word、Excel、PowerPoint、データベース検索）を使って、学修する必要がある。

教科書	.使用しない。			
-----	---------	--	--	--

参考文献	.国民衛生の動向。		厚生労働統計協会	2695	
	.健康・医療の情報を読み解く 第2版 健康情報学への招待。	中山 健夫	丸善出版	2200	4621087320
	.ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード。	福田 洋他	大修館書店	2090	4469267953

その他	<資料> 授業中に適宜配布する。
-----	---------------------

授業計画

- はじめに
- 健康情報の収集 エビデンス
- 健康情報の収集 ナラティブ
- ヘルスリテラシーとは
- 疫学の基礎 因果、バイアス
- 疫学の基礎 症例対照研究、コホート研究
- 保健統計 人口動態統計
- 保健統計 人口動態統計
- 保健統計 死因統計
- 主要疾患の疫学と予防対策（がん、脳血管疾患、心疾患）
- 主要疾患の疫学と予防対策（感染症）
- 主要疾患の疫学と予防対策（精神疾患・その他）
- 生活習慣の現状と予防対策（健康に関連する行動と社会・身体活動・運動）
- 生活習慣の現状と予防対策（喫煙・飲酒・睡眠、休養、ストレス）
- まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：事前に公開される講義資料を熟読し、関連するニュースを収集する（2時間）
復習：講義で学んだキーワードを整理し、ノートにまとめる、タイピング練習（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本講義は、健康分野に関する基礎知識やプレゼンテーション能力の習得を到達目標としており、ディプロマポリシーに貢献する科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

PCを使って情報検索やグラフ、プレゼンテーション資料の作成を積極的に行います。また、MicrosoftFormsにより習熟度を確認し、質問を受け付けます。

実務経験の有無及び活用

備考